

● 下垂体機能障害

- 下垂体機能障害(下垂体炎及び下垂体機能低下症を含む)の症状を注意深く観察し、内分泌機能検査(コルチゾールやACTHなど)を定期的実施してください。
- 下垂体機能障害が疑われる場合、速やかに内分泌代謝科専門医と連携し適切な処置を行ってください。

発現例数(発現割合)

単独投与の臨床試験における「内分泌障害(下垂体機能障害)」の発現は5,707例中44例(0.8%)、Grade 3以上は22例(0.4%)でした。

各臨床試験*における発現状況は臨床試験情報の項(P.46~127)をご参照ください。

*本資料掲載の臨床試験はP.5参照

対処法

- キイトルーダ®の電子添文に記載されている下表を参考に、本剤の休薬又は中止を検討してください。

| 副作用 | 程度 | 処置 |
|-------|---|---|
| 内分泌障害 | <ul style="list-style-type: none"> • Grade 2以上の下垂体炎 • 症候性の内分泌障害(甲状腺機能低下症を除く) • Grade 3以上の甲状腺機能障害 • Grade 3以上の高血糖 • 1型糖尿病 | Grade 1以下に回復するまで、本剤を休薬する。 12週間を超える休薬後もGrade 1以下まで回復しない場合には、本剤の中止を検討する。 |

GradeはNCI-CTCAE(Common Terminology Criteria for Adverse Events)v4.0に準じる。

補足

臨床試験時に規定されていた以下の対処方法とフォローアップを参考にしてください。

| | 対処方法 | フォローアップ |
|-----------|---|---|
| Grade 2~4 | <ul style="list-style-type: none"> • 内分泌代謝科専門医への相談を検討する。 • 適切なホルモン補充療法(ヒドロコルチゾンなど)を行う。 • 必要に応じて薬理量の副腎皮質ホルモン剤を投与する。 | <ul style="list-style-type: none"> • 下垂体炎(下垂体機能低下症及び副腎機能低下症を含む)の徴候及び症状を注意深く観察する。 |

本事象に関連する以下の項目については付録のP.137~138をご参照ください。

- ▶ 臨床症状・検査所見
- ▶ ガイドライン等による対処法の補足
 - ホルモン補充療法実施時の注意点
 - 薬理量のステロイドの投与について

免疫チェックポイント阻害薬による内分泌障害(下垂体機能障害)については、免疫関連有害事象に関する各種ガイドラインも参考にしてください。